

## 平成 21 年度社会福祉法人佐渡市社会福祉協議会事業報告

はじめに

佐渡市の高齢化率は 36%と国の推計をはるかに超えており、5年後には第1次ベビーブーム世代が 65歳に到達する時期であることから、更に超高齢社会が予想されます。高齢者人口の急増に伴い要介護高齢者及び認知症高齢者も増加することが予想され、介護予防や認知症高齢者に対応したケアの確立が課題となっております。

佐渡市社会福祉協議会は、基本理念として、『誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり』を掲げ、地域福祉推進の中核機関の役割を果たすため、県、市、福祉諸団体、ボランティア等幅広く関係者と連携、協働のもと、各種事業をとおして豊かな福祉社会の実現に向けて取り組んでまいりました。

主な取り組みとしては、高齢者等が地域で尊厳をもって自分らしい生き方ができるように、住民主体の支え合いやいきいきサロン、地域の茶の間等の事業を推進してまいりました。

また、ボランティアセンターでは、各種ボランティア講座の開催のほか、市内小中学校での福祉出前塾に積極的に取り組み、小中学生に福祉やボランティアの理解を深める活動を展開してまいりました。

本年4月には市の施設であったデイサービスセンターかんぞうをはじめ4施設の譲渡を受け、補助金依存型の運営から自主自立の経営転換に努めてきたところであります。その後も市の方針である民間譲渡の方向に役職員一丸となって検討を重ね、平成22年度には複合福祉施設、老人福祉センター及び温泉保養施設の公募に申込みをし、結果として本会に譲渡が決定したところであります。また、近年民間団体経営の特別養護老人ホーム、介護保健施設及び通所介護事業所の新設が続き、通所介護事業所等の利用者減の要因となっていることは否めません。これらに打ち勝つには利用者へのサービスの向上しかないと考えられることから今まで以上に職員の資質向上に努めなければならず、体系的に外部研修、内部研修に取り組んできたところであります。

社協の活動や制度を市民の皆様から知っていただくため、社協だよりは平成21年度からは毎月の発行としました。また、ホームページの更新により、最新情報の提供にも取り組みました。また福祉大会でも多くの市民に社協活動について知っていただくことができたと考えております。